

会 議 録

会 議 の 名 称	平成20年度 第1回 岩城地域協議会
開 催 日 時	平成20年6月26日(木) 午前10時00分
開 催 場 所	岩城総合支所 講堂
出 席 者 氏 名	「出席者名簿」のとおり
欠 席 者 氏 名	「出席者名簿」のとおり
【会議次第】 1. 開 会 2. あいさつ (①協議会会長) 3. 協議事項 1. 公債費負担適正化計画及び平成 20 年度予算の概要について 2. 財政計画素案と総合発展計画主要事業の見直し作業について 3. 岩城地域の観光振興について(委員提案テーマ) 4. その他 5. 閉 会	
会 議 の 経 過	別紙のとおり

◆出席者名簿

(委員:18名、他16名)

会 長	前川 侔	理事	佐々木永吉	事務局	大竹 晃
委 員	今野次男	企画調整部長	中嶋 豪	事務局	高山淳一
委 員	三船丸男	財政課長	阿部太津夫	事務局	佐林祐輔
委 員	堀井盛男			事務局	安藤 謙
委 員	進藤三男	総合支所長	鈴木幸治		
委 員	今野清子	振興課長	渡部 進		
委 員	進藤敏和	市民課長	打矢郁良		
委 員	金森巳嗣	福祉保健課長	小川 弘		
委 員	高野弘美	産業課長	伊藤尚武		
委 員	渡部秋美	建設課長	渡部 昭		
委 員	伊藤修二	教育学習課長	堀井幸二		
委 員	阿部一雄	児童センター長	早川修一		
委 員	中村慶一	亀田出張所長	佐藤利一		
委 員	今野房夫				
委 員	今野正樹				
委 員	早川あけみ				
委 員	堀井ヤス子				
委 員	須田まり子				

【欠席者】 長谷部鋼次委員、進藤貢委員、竹内善次郎委員、高野啓二委員、佐々木力ネヨ委員、三浦稔委員、船木敬子委員、佐々木稔子委員、佐々木由美子委員、川上淳子委員、奈良禎子委員

会議の経過

平成20年度第1回 岩城地域協議会

平成20年6月26日(木)

午前10時00分 開会

◇ 議長

これより協議に入ります。まず、案件(1)の公債費負担適正化計画及び平成20年度予算の概要について、説明願います。

～ 佐々木理事 説明 ～

◇ 議長

この件については次にご審議いただく案件とも関連がございますので、ご意見、ご質問については双方の説明の後で受けたいと思います。引き続き、案件(2)の財政計画素案と総合発展計画事業の見直し作業について、説明願います。

～ 中島企画調整部長、阿部財政課長 説明 ～

◇ 議長

それでは、案件(1)(2)を通してご質問・ご意見・ご提言を受付けます。何かございませんか。

○ A 委員

ただいまのご説明から、中には合併前にやるべきことがたくさんあったのでは、と感じました。なぜ、合併前にやらないで新市にもちこんだのか。疑問を感じます。その点についていかがでしょうか。

● 阿部財政課長

合併直前の16年度、各地域においてそれぞれ多くの事業が実施されておりますが、その償還が今年度から開始されますので、非常に厳しいと認識しております。

○ A 委員

それから債務負担についてですが、資料に平成 18 年度までしか記載がありませんが、19 年度以降はどうなっているのでしょうか。

● 阿部財政課長

土地の購入等がなくなっておりますので、減となっております。

◇ 議長

他にご質問ありませんか。

○ B 委員

この計画、相当英知を絞ってやられたものと存じますけれども、大変厳しいなと思う部分と、甘いなと思うところがあります。まず、まちづくり計画を4割減らして6割でもってやっていくということですが、財政の収支計画を見ても、端的にいうと例えば人件費、新規採用は退職者の3分の1にするというシュミレーションで人件費削減を図るということですが、それでも一般財源が足りない。民間であればお金が無いどうしても人件費に目が行くわけで、そうした場合、確かにどうしても居らなければならない職員も居ります。例えば住民と直結する現場に携わるものについては、それなりに手厚くして、住民サービスが低下しないような人員の確保をしなければいけませんけれども、私はもっと人件費の削減をしないといけないと思う。これをみると新規採用は退職者の3分の1の補充に抑えて人件費を削減していると言っているが、実際には痛みが伴っていない。例えば大仙市であっても秋田県であっても、全国至るところで10%とか15%人件費を抑制する手段を講じている。いろいろ職員との間に軋轢はあるでしょうけれども、それを実施しようとしています。私は由利本荘市のシュミレーションをみても、そういうことが一かけらも載ってない。人件費についてはもう一行くらい書かれていてもよいのではないかという感じがします。ですから、どのようなシュミレーションを作っても、そこに手を付けないと私は赤字だと思えますよ。それに、連結決算という形になると第三セクターの決算も入ってくる。当然赤字分が出てくるわけで、夕張になりたくないといっても夕張の実態が間もなく生じてくるんです。そういうことを頭において進めなければいけないと私は思います。この公債費負担計画をみると、下水道とか上水道についても触れられておりますが、これらは住民からすると日常生活に絶対欠かすことのできない、基礎的施設であります。おそらく来年度から、下水道使用料も料金の全市統一化という名目のもとに、実質的な引き上げがなされる計画だろうと思いますけれども、このような社会経済情勢の中でそこまで踏み込んでいくとすれば、相当市民の皆さんから反発や苦情がでくると思います。そういうことを想定しても尚且つそれをやろうとしておられるのでしょうか。文章では大変きれいです。けれども私は率直に申し上げて、来年度から下水道あるいは上水道の料金も引き上げるんだな、と感じております。そのほか諸々の住民サービスも出るものは抑制、入るものは引き上げ。我々が理想としておった合併の夢というのが、無残にも消え去ろうとしておるのではないかと感じます。資料にはいろいろ出ていますが、私は甘いと思います。同じ職員同士では人件費に切り込むことなんかできませんよ。もう少しこういう計画を立てる場合、第三者、そういう方を入れた機関をもって、財政計画を立ててはいかがなものでしょうかと私

は思います。そうでないと本当の意味の財政計画がでてこないし、市民の理解をも得ることができないと思います。

● 佐々木理事

お話をお聞きしまして、よく考えさせていただきます。

○ C 委員

合併協議会で心配し、危惧しながらいろいろご意見を申し上げたとおりの実態をご説明いただいたと思っています。これはもう、合併協議会の席で、口が酸っぱくなるほど大丈夫なのですかと申し上げたことが、今当局の皆さんから、大変な状況ですから新たな十カ年計画で見直しをしなければならないという説明をされたということに尽きるのだと思います。私は何度も申し上げました。人口が減少していく交付税がだんだん少なくなっていく、それと景気がどのようになるか判りませんから、税収が伸びるといことはそんなに甘くは見通せない。一般財源がどんどん減少していくのが目に見えるけれども、歳入の面で一般財源が増加する、大丈夫だというような見通しは立ちませんから、放漫経営といえば言葉は悪いですが、そんなことをやっていたのでは財政は持ちませんよと。それと、市民から合併して良かったと言われるようなことが出てくるようであればよろしいけれども、とてもそうは甘くはないだろう。少なくとも現状よりは行政サービスが低下しない、そういう程度のことはやっていただきたい、そういうご意見を申し上げて法定協議会ではがんばってきました。先ほど阿部課長が目に見えない合併効果もあろうかと思うというお話をされましたが、私は合併3年余経過しましたが、地域の山奥で生活しておりますと、合併効果どころか、良くなったものがひとつもありません。地域に住んでいる人は合併して何でこんなに悪くなったんだと、こういう声が渦巻いている状況であります。しかしながら、財政面を考えますと、私は、「将来とも厳しいですから我慢するところは我慢して」と周囲の皆さんにはお話をしておりますが、全ての面で由利本荘市を預かっている市長はじめ職員の皆さん、もういっぺん心を洗濯してくださいよ。新しい計画策定、発展計画をつくる、あるいは財政計画をつくるという段階で、心の洗濯をしていただきたい。今までのような考えでは由利本荘市は立ち行かないということは皆さんもご承知でしょう。今までのように職員がぬくぬくとしているといえば怒られますが、そんな役所では持ちませんよ。自分たちが市民から付託をされて、行政執行の命を受けた職員であるということを認識するならば自分たちの置かれた立場でどうするかということをも真剣に考えていただきたい。毎日、大阪府の橋本知事が引っ張りだこです。5兆円を超える負債をどのように減少していくのか、その中に職員の給与カットが出ています。職員は猛反発であります。新しい発展計画や財政計画の見直しの中で、補助金やそういうものを見直す、水道や下水道等も料金改定する、全て市民の負担につながる事なのです。しかしながら、役所の中にいる人たちには痛みがひとつも判らない。特権階級なのですか。もういっぺん心を洗濯して、頭の中をきれいに洗濯して、由利本荘市の行政マンは誰のために何をしなければならないかということをもっと真剣に考えていただきたい。私は多少なりとも納税者ですが、このような形で市の行財政の運営内容をご理解いただきたい、そう説明されましても、ハイそうですか、とは言いかねます。もっと真剣になって、住民の皆さんから賛同を得るような発展計画、財政計画というものを出示していただきたい。県と協議を進めながら40%カットの財政計画を立てたということですが、そんなに甘いものだと私は思いません。市の将来を考えますと、私も含めて市民はもちろんであります、職員も皆

が痛みを分かち合える、そういう計画を策定するようにお願いをいたしたい。もう世の中が変わったのであります。新聞に出ている財政の指数等の一覧を見ましても、由利本荘市は秋田県内でも決して良い方ではありません、厳しい方です。都道府県で見ても、昔から貧乏秋田県、このように云われまれが貧乏秋田県、貧乏由利本荘市、これをどのように立て直すのか、これは皆さん方が本気になって計画を策定して、そのとおりやれるかどうか、これにかかっています。私はただ行政サービスを低下させる、市民の負担を強いる、それで歳入や歳出のつじつまを合わせるなどという安易な気持ちでなく、もういっぺん洗濯をしておして出直していただきたい。皆さんも痛みは共に分かち合っていたいただきたい、そういう計画や素案を出していただきたい、これはお願いであります。

○ B 委員

まだまだ無駄遣いがある。そういうこと全然反映されていませんよ。維持補修費は2億4千万でずっと行くということになっていますけど、それでは何もできませんよ。こんな計画よくつくれるなあと、私見えますよ。絶対こんなことはあり得ませんよ。維持補修費は年々増えていくんですよ。

○ C 委員

行政改革で、例えば出張所の廃止についてですが、出張所は住民と行政サービスの接点なんですよ。これに一番先に手を付けるということは、私から言わせると、これの維持管理費なんか500億もの年間の予算の中で、もっと無駄を削って、地域の住民サービスを提供する支所等の廃止なんてやらなくたって、いくらでもできるじゃないですか。平成20年度は当局がその案を引っ込みました。21年度にまた出てくるかもしれません、いや、出るでしょう。住民サービスの、住民・市民との接点を削るというような考えは私は承服できませんよ。役所を無くすということはどういうことなんですか。そんな安易なことで、地域住民が安心をして、合併して良かった、サービスの充実があって喜んでいるなんていう市政ができますか。新たな計画の中にはそういうことも十分考えてもらいたい。

◇ 議長

他に意見が無ければ、この件については終了したいと思います。続いて、継続案件であります岩城地域の観光振興について、時間の許す限り皆さんで審議していただきたいと思います。具体的な協議は次回以降となりますが、本日は伊藤産業課長より、第三セクターの経営状況、天鷲遊園の現況等について、説明していただきます。

～ 伊藤産業課長 説明 ～

○ C 委員

天鷲遊園は使用可という部分のみで土日祝日にオープンするということですが、それに伴って電気料ですとかいろいろな経費が掛かってくると思いますが、そういうものは委託をされている天鷲村が負担することになっているのですか。

● 伊藤産業課長

電気料、水道料、下水道料につきましては、天鷲村での負担となっております。

○ D 委員

天鷲遊園については、この連休には利用できることになって、遠くから来た孫を連れて行きました。まさに使用可というもののだけの営業でしたが、それでも喜んで帰っていきました。ほぼ無料開放ということで、これで電気料等維持できるのか疑問でした。何らかの形で無料じゃない形はできないものでしょうか。もうひとつ、郵便局の赤いポストを黄色くしているところが全国方々にあるようです。申請によってそういうこともできるようですので、そういったことも検討してみてもどうでしょうか。

● 伊藤産業課長

確かに維持管理等考えますと、電気料、水道料、下水道料、賃金もかかるわけですので、それを支出することを考えればいくらでも料金をいただきたい、というのが本音であります。そのことも会社の役員会の中で出ましたけれども、せっかく遠方からいらしてくれたお客さんに対して、3つだけの遊具ではあまりにも申し訳ない、せっかくいらしたのだから楽しんでお帰りいただきたい、という発想から今回は料金を徴収しないことで営業させていただいております。黄色いポストについては、検討してみたいと思います。

○ B 委員

決算状況を見ると、3つの会社とも損失額が増加しておると見受けました。これはおそらく20年度においても原油や食材が高騰していますから、そしてワインの場合は売り上げも下がっていますから、ここ数年はこの傾向が続いていくような感じがします。そうすると、あまり良い条件下にはないように思います。ですから、この赤字は最終的には市で補填しなければいけないと思いますよ。これは独自には解決できないことです。これは岩城地域だけのことではないですよ。他の地域でも大小はあるけれどもこういう実態だと思います。そうすると、それぞれに市ではかなりの出資をしております、もうほとんど100%近い出資でしょう。直営と変わらないですよ。赤字がでると、全て市で補填しなければならない。そういうものも見込んで財政計画を立ててもらわないと困るんですよ。まさに夕張は第三セクターで潰れたようなものです。そこを肝に銘じてやっていただきたい。それから、天鷲遊園ですが、昨年度の協議会で、廃止ですか休止ですかと問われた際には休止ですということだった。しかし私はそれは言葉のあやだけで事実上廃止と同じ状態だと思う、何も手当てもしていませんし。ちょっと指摘しておきたいのは、あそこは蜂がでる。蜂の駆除にそうとう手間取っているようで

すが、近くには亀田小学校がありますので、そういう面の対策をきちんとしておいていただきたい。

● 伊藤産業課長

確認して、早速対応させます。

○ E 委員

この件とあまり関係ありませんけど、学童保育のことで教えていただきたいのですが、亀田小学校の児童数は6、70人くらい居ますけれども、今学童保育に行っているのは何名くらいでしょうか。

● 小川福祉保健課長

亀田小学校で学童に登録しているのが70名近くおります、登録だけで。現在利用しているのはだいたい15名です。土曜日になると料金が高くなりますので、5名くらいの利用です。

○ E 委員

料金にも関わることでですけど、1、2、3年生くらいまでは利用するんだけど、4年生になれば、料金が掛かるから学童保育に行かないで向かいの長善館で時間をつぶしているようなんです。そして、普段の日は200円で、土曜日は500円で、ということなので負担が大きくて、これがまた夏休みになったら1日500円ですよ。そうすると二人くらい子供さんがいたとしても預けられるだろうか、というのが今出ているように聞いております。例えば二人だと二人目については減免するとか、そういうことはあるのでしょうか。

● 小川福祉保健課長

他の地域からも、そういう声が出ております。本庁の子育て支援と協議をしまして、減免とかそういった方向も検討しております。

○ C 委員

有料ではなく、無料でやってくれればいいじゃないですか。教育、子育て支援なんですから。全てサービスの低下、有料化だもの。たまったものじゃないよ、住民は。

○ F 委員

道川小学校ではお金のある人でなければ学童保育に行けないと子供たち自身が話している。

○ C 委員

こういうことから格差がでるんですよ。

○ G 委員

これが大体間違いですよ。子供が足りない、少子高齢化って言っておきながら、せっかく子供が生まれたのにそういう子供自体から 200 円・500 円取るという、そういう行政自体がおかしいですよ。これからの次代を担う子供たちを育てていくというときに、なんで金取るんですか。それが判らない、その発想が。これは是非検討して下さいよ、早急に。

◇ 議長

他になれば、皆さんから一通りそれぞれの件についてご審議いただきましたけど、次回以降、前回と今回の内容をもとに具体的な協議を行い、提言書のような形にまとめていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

◇ 議長

以上をもちまして平成 20 年度第 1 回地域協議会を閉会します。

閉会 正午